

植物  
防疫  
講座

虫害編-32

リンゴに発生する害虫の生態と防除

地方独立行政法人 青森県産業技術センター いし ぐり よう いち  
りんご研究所 石 栗 陽 一

はじめに

リンゴ害虫を加害部位別に見ると、果実を加害する種、葉を加害する種、枝幹を加害する種に類別される(表-1、地下部を除く)。果実内部を加害する種はシンクイムシ類と呼ばれ、生産物の品質や収量に直接的な影響を及ぼすため、防除上、特に重要な種を含む。また、ハマキムシ類のように、通常は葉を加害し、商品となる果実には間接的な影響しか及ぼさないが、特定の条件下では果実表面も食害し、直接的な影響を及ぼすといった、複数の部位を加害する種類も存在する。

永年性作物であるリンゴに発生する害虫相は多様性に富むが、農薬散布や栽培管理等の人為的なく乱にさらされているため、一般の園地で問題となる種類は限られたものとなる。使用する農薬の種類や栽培体系の違いによって、地域や園地、あるいは年次ごとに優占する害虫種は異なるが、本稿では、リンゴの主産地である青森県で防除対象としている主要害虫について、被害の特徴、発生生態の概要、防除法を解説する。

I モモシンクイガ *Carposina sasakii*

幼虫が果実内部に食入して加害する代表的なシンクイムシである。卵は主に果実のがくあ部(花止まり)に産みつけられるが(図-1、白色矢印)、一部はこうあ部(つる元)にも見られる。卵からふ化した幼虫は果実表面を歩行して、適当な場所を見つけると、針で突いた程度の小さな穴を開けて果実内部に食入する。産卵ががくあ部に多いため、食入部位は果実の赤道部よりも下(がくあ部側)に多い。食入痕からは透明な汁液が滲出し(図-1、黄色矢印)、雨などによって流されなければ、次第に白く固まって果実表面に遅くまで残る。幼虫は果肉や種子を食害するとともに、果実内部に排泄物を充満させるため、被害を受けた果実は商品価値を失う(図-2)。幼虫が老齢になると、果実表面に穴を開け、湿った粒状の排

表-1 青森県りんご生産指導要項に掲載している各種リンゴ害虫の加害部位

害虫名	加害部位		
	果実	葉	枝幹 <sup>a)</sup>
*モモシンクイガ	◎		
*ナシヒメシンクイ	◎		◎
*ハマキムシ類	○	○	
*キンモンホソガ		◎	
*ギンモンハモグリガ		◎	
シャクトリムシ類		○	
キリガ類	○	○	
フタモンマダラメイガ	○		○
*ヒメボクトウ			◎
オオタバコガ	○	○	
*アブラムシ類		□	□
リンゴワタムシ			□
カメムシ類	□		
カスミカメムシ類	□	□	
*クワコナカイガラムシ	□		□
ナシマルカイガラムシ	□	□	□
*ハダニ類		□	
リンゴサビダニ		□	

\*: 本稿で取り上げた害虫。  
◎: 内部を食害, ○: 表面から食害, □: 吸汁。  
a): 木化していない伸長中の当年枝を含む。

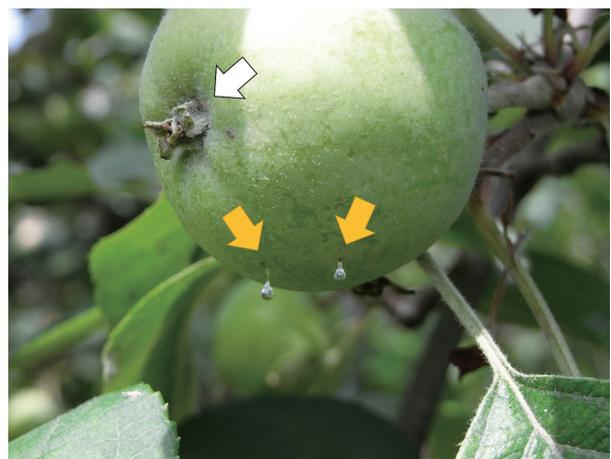


図-1 モモシンクイガの卵(白色矢印)と食入痕から滲出する汁液(黄色矢印)

Insect and Mite Pests of Apple in Japan: Biology and Management. By Yoichi ISHIGURI (キーワード: リンゴ, 害虫, 生態, 防除)